

日刊建設工業新聞（2014年12月3日付1面掲載）

【ACKグループ 能力や希望で定年延長 オリコンサル1月から人材確保へ環境整備】

ACKグループの野崎一に応び、今後の経営方針を明らかにした。さまざまは技術やサービスを確保と育成が不可欠と

能力や希望で定年延長

ACKグループ
1月から人材確保へ環境整備

秀則社長は2日、日刊建設工業新聞のインタビューで、「人材の確保と育成が不可欠」と述べた。

ACKグループの野崎一に応び、今後の経営方針を明らかにした。さまざまは技術やサービスを確保と育成が不可欠と

して、多様な人材が働きやすい、活躍できる環境を整えるため、制度の再構築を進める考えを表明。取り組みの第1弾として、オリエンタルコンサルタンツが来年1月に、社員の能力や希望に応じて定年退職を65歳まで延長する制度を導入することを明らかにした。

ACKグループは、会のニーズを的確に捉えてサービスや技術を提供し続ける企業集団の実現を目指している。ビジネスモデルの転換には人材の確保と育成が不可欠と

して、現在進行中の中期経営計画では、関連施策の実行を重要項目に位置付けている。

野崎社長は、「多様な人が働きやすく、活躍できる職場づくりには少しお工夫が必要」と指摘。今後3年間でグループ全体の社員数を970人増やすという目標に連動し、まずは中核事業会社のオリコンサルで定年退職や雇用形態などの制度を再構築することとした。

1月に導入する定年延長制度は、現在60歳に設定している定年退職年齢を含め15年9月期中に新規制度の検討を完了させることとの考え方を示した。

新制度と併せて処遇も再検討。オリコンサルが先鞭(せんべん)をつけ、他の事業会社へと広げていく方針だ。